

在マレーシア日本国大使館付属ジョホール日本人学校



学校長 あいさつ

校長 川口 浩

本校は、「ジョホール・バルの歓喜」として知られ、日本サッカー代表がイランに勝利し、ワールドカップ初出場を決めた平成9年(1997年)、時を同じくしてここジョホール・バルの地に開校しました。ジョホール・バルは、マレー半島最南端に位置し、わずか1Km 余りの海峡を挟んでシンガポールと向かい合っているマレーシア第2の都市で、近年、政府のイスカンダル・プロジェクトのもと、急速な発展を遂げています。

本校創立以前は、日本語での教育を希望する児童生徒は、毎日片道 2 時間の道のりを、パスポートを携えシンガポールまで通学していました。そのような中、ジョホール日本人会のご尽力のもと、学校設立委員会が発足し、マレーシア教育省からの認可を受け本校が誕生し、本年度で創立24年目を迎えました。令和2年4月現在、小学部54名、中学部8名、計62名の児童生徒が在籍しています。学習指導では、日本国内の学校に準ずる教育課程を編成するとともに、2大行事である「運動会」「ペスタクラパ(文化祭・学習発表会)」を中心に、現地校やインターナショナル校とも交流を図り、充実した教育プログラムを提供しております。

さて、本年度より、新学習指導要領が完全実施となります。(中学校では次年度より。)その実施に合わせ、本校では、

児童生徒一人ひとりの個性を最大限に伸ばし、『持続可能な社会の創り手』をはぐくむことにより、自身の幸福を築くとともに国際社会に貢献することのできるグローバル人材を育成する。

を教育目標に掲げ、『魅力があり、信頼できる学校づくり』をめざして、教職員が一丸となって英知と熱意を結集し、保護者や地元邦人社会の皆様と連携を図り、弛まぬ努力を続け、教育改革に取り組んでまいります。

皆さんご存知のように、令和2年(2020年)1月以降、急速に拡大した新型コロナウイルスの感染により、たった数か月で世界は激変しました。マレーシアも例外ではなく、政府の発令によるMCO(Movement Control Order)により、活動制限令下での厳しい生活を余儀なくされました。今回のこの経験は、“我々が当たり前とらえていた普通の生活が、実はとても脆い土台の上に乗ったものであること”を強く認識させるものとなりました。大げさではなく、人類は、別の次元へと、一歩足を踏み入れたのではないかと感じます。

このような時代であるからこそ、教育に課せられた使命は大きいのではないのでしょうか。本校では、

在外教育施設

小規模・小中一体(一貫)校

という特色を生かし、国連が推進するSDGs(持続可能な開発目標)の達成のためのESD(持続可能な開発のための教育)をカリキュラムマネジメントの中核に据え、社会に開かれた教育課程を編成することにより、前述の教育目標に掲げた、地球的課題を我が課題としてとらえ、身近なところで行動を起こせる『持続可能な社会の創り手』の育成に努めてまいります。

以上本校の、歴史・目標・活動等につきまして、簡単ではございますがご紹介させていただきました。ご入学をご希望、ご検討される皆様は、遠慮なくご一報ください。